

802.11b+g USB Wireless LAN Adapter

取扱説明書

REGULATORY STATEMENTS

FCC Certification

The United States Federal Communication Commission (FCC) and the Canadian Department of Communications have established certain rules governing the use of electronic equipment.

Part15, Class B

This device complies with Part 15 of FCC rules. Operation is subject to the following two conditions:

- 1) This device may not cause harmful interface, and
- 2) This device must accept any interface received, including interface that may cause undesired operation. This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy, and if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:
 - ⊖ Reorient or relocate the receiving antenna.
 - ⊖ Increase the distance between the equipment and receiver.
 - ⊖ Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.

CAUTION:

- 1) To comply with FCC RF exposure compliance requirements, a separation distance of at least 20 cm must be maintained between the antenna of this device and all persons.
- 2) This transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

目 次

ご紹介.....	1
特徴.....	1
LED ランプ.....	2
インストール.....	3
ドライバとユーティリティのインストール.....	3
ハードウェアのインストール.....	6
WINDOWS 2000/XP.....	6
WINDOWS 98/ME.....	7
ネットワークリンク.....	9
WINDOWS 98SE/MEの設定.....	9
WINDOWS 2000/XPの設定.....	12
IP アドレスの設定.....	14
ユーティリティの設定.....	15
STATION.....	17
ACCESS POINT（アクセスポイント）.....	24
付録.....	29
SOFT AP CONFIGURATION.....	29

ご紹介

802.11b+g Wireless LAN USB Adapter は、ラップトップやデスクトップタイプコンピュータの USB ポート標準コンソールとして設計されていますので無線ワークステーションを構築する際にご使用下さい。

この **802.11b+g Wireless LAN USB Adapter** は、USB 2.0 規格と互換しますので、デスクトップコンピュータの USB ポートと接続することができます。

802.11b+g Wireless LAN USB Adapter は、**IEEE 802.11g** 基準と互換すると共に無線 LAN 環境の中において最高で **54Mbps** という高速送信率を誇ります。また **IEEE 802.11b** の基準とも互換することができます。当装置は、無線ネットワークインターフェースカードで、コンピュータを無線方法を用いて簡単に無線 LAN や無線アドホックネットワークと接続することが可能となりました。オフィスのデスクや会議室を問わずプリンタ、ファイルやその他のネットワーク資源を共用することができます。

特徴

- 2.4GHz の無線 LAN の IEEE 802.11g 基準と互換
- USB 2.0 規格と互換
- USB プラグアンドプレイをサポート
- 現在の全てのネットワーク基礎構造に適用
- 情報を確実に送信
- リンク時でもスペース上の制限を受けません
- 特定無線製品のサービスと互換
- 最高で 54 Mbps という高速送信率
- アンテナ、LED ランプを内蔵
- 電力消費量が低い
- インストールと設定が簡単

LED ランプ

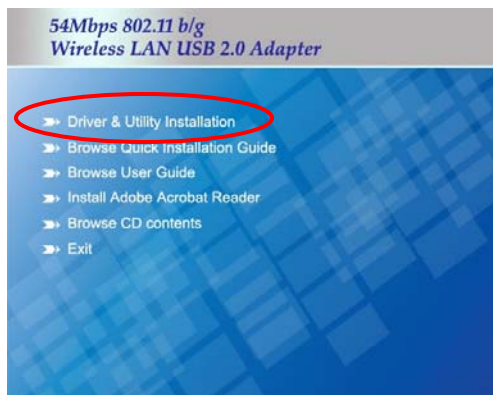
カラー	緑色
状態	点灯:電源オン/ネットワークリンク中 点滅:無線データを送信/受信中

インストール

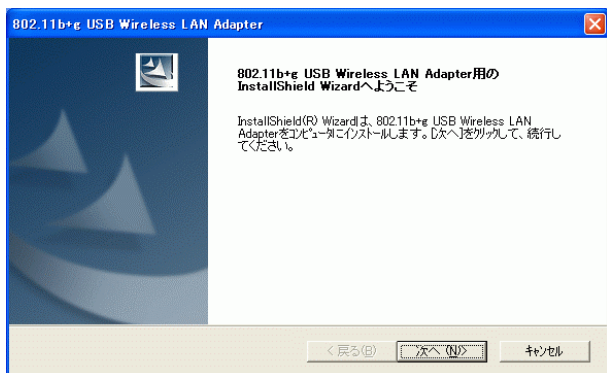
ドライバとユーティリティのインストール

注意!

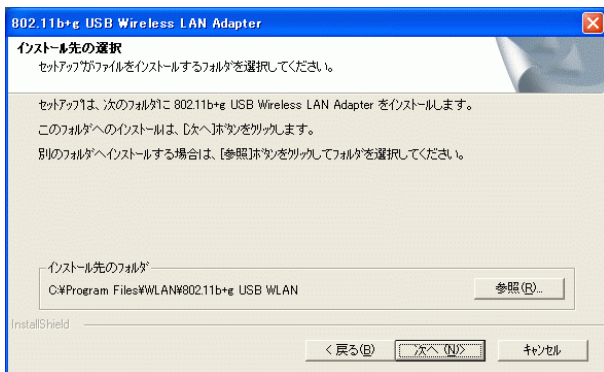
1. ウィンドウ内の全てのプログラムを閉じて下さい。そして付属の光ディスクをコンピュータのドライブにセットすると自動的にセットアップを開始します。
2. 下図の画面が現れましたら、“**Driver & Utility Installation**”をクリックして次に進んで下さい。



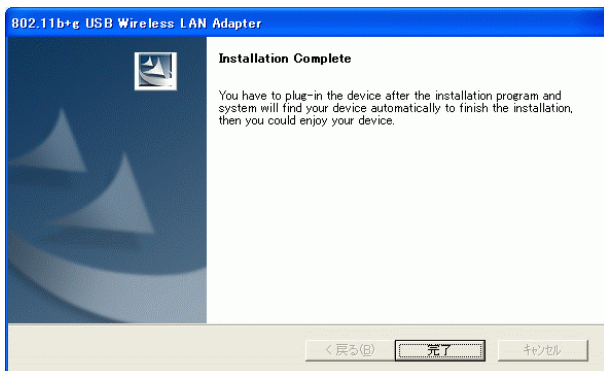
3. 下図の画面が現れましたら、“Next”をクリックします。



4. ドライバが、自動的にインストールされますので、画面の指示に従ってインストールを行って下さい。



5. **Finish** をクリックするとソフトウェアのインストールが完了します。



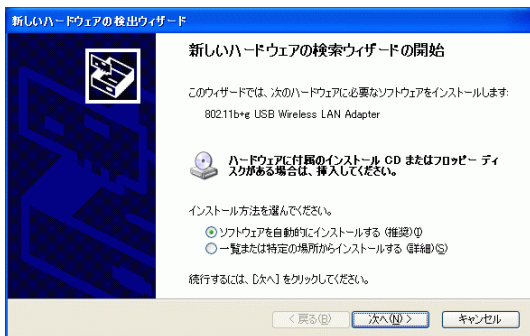
ハードウェアのインストール

Windows 2000/XP

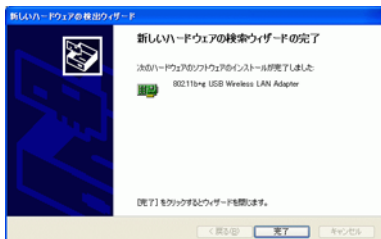
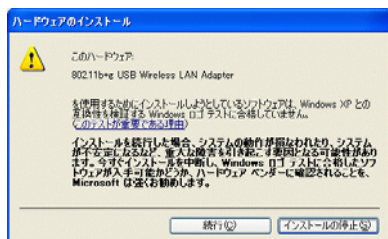
ご注意ください: ハードウェアのインストールを行う前に、必ずドライバとユーティリティをインストールして下さい。インストール手順については前記のドライバとユーティリティ部分を参照下さい。

Windows XP をご使用の場合

1. 右の図のように、ハードウェアを PC の USB ポートに差し込みます。
2. ハードウェアを取り付け後、PC が自動的に新たなハードウェアを認識します。
3. 下の図が表れた際、ソフトウェアを自動的にインストールする**(推奨)**を選択します。

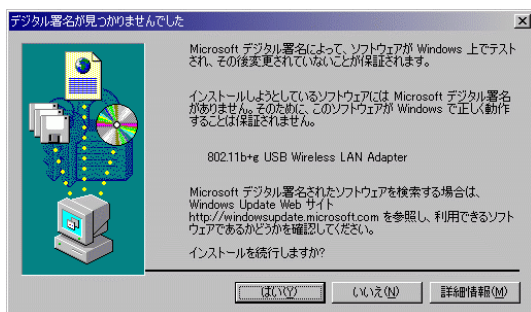


4. インストールを続ける→完成を選択して下さい。ハードウェアのインストールが終了します。



Windows 2000 をご使用の場合。

ハードウェアを PC の USB ポートに差し込むと以下の画面が現れますので、はいを押すとインストールが終了します。

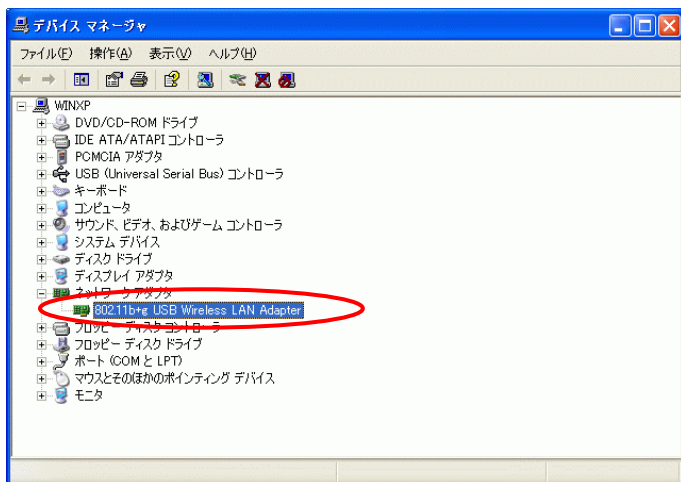


Windows 98/ME

Windows 98/Me をご使用の場合は、ハードウェアを PC の USB ポートに差し込むことでご使用になれます。

インストールの確認

インストールが完了したことを確認するには、スタート→ 設定→ コントロールパネル→ システム (→ ハードウェア) → デバイスマネージャをクリックします。ネットワークインターフェースカードをクリックして **802.11b+g USB Wireless LAN Adapter** が存在していると、インストールが完了したことを示しています。

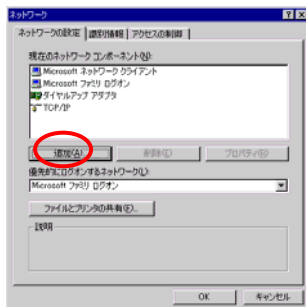


ネットワークリンク

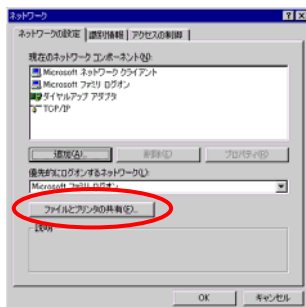
ドライバのインストールが完了した後、以下の手順に従ってネットワークリンクを構築して下さい。

Windows 98SE/ME の設定

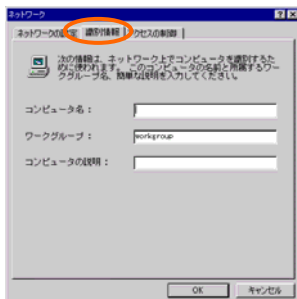
1. スタート → 設定 → コントロールパネル → ネットワーク。
2. 必要なコンポーネントがすでにインストールされていることを確認して下さい。コンポーネントがまだインストールされていない場合は、“追加”をクリックして下さい。



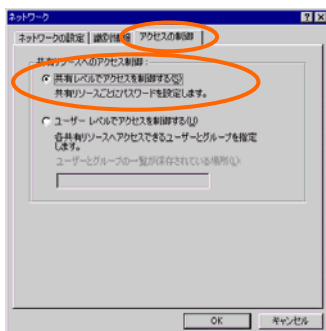
3. ネットワーク上でお客様のコンピュータを見たい場合は、“ファイルとプリンターの共有”をクリックして下さい。



4. “識別情報”見出しをクリックします。“コンピュータ名”でネットワーク上のその他のコンピュータと異なる名前を入力して下さい。“ワークグループ”名を入力します、この名前は、ネットワーク上の全てのその他のコンピュータで共用使用する名前ではありません。



5. “アクセスの制御”見出しをクリックします。“共有レベルアクセス制御”を選択されていることを確認します。コンピュータが Netware サーバーにリンクしている場合、共有レベルを“ユーザーレベルアクセス制御”に設定することができます。



6. 設定が完了した後、再起動することによって新しい装置が起動します。

Windows 2000/XP の設定

1. Windows 2000

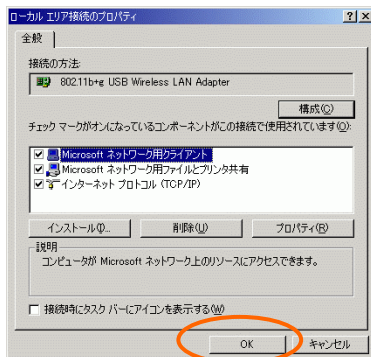
スタート → 設定 → コントロールパネル → ネットワークとインターネット接続 → ローカルエリア接続 → プロパティとクリックします

Windows XP

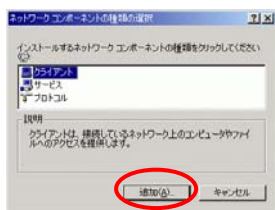
スタート → コントロールパネル → ネットワークとインターネット接続 → ネットワーク接続 → 無線ネットワーク接続とクリックします。



2. 必要なコンポーネントがすでにインストールされていることを確認します。



3. コンポーネントがまだインストールされていない場合、“インストール”をクリックして、インストールに必要なクライアント/サービス/プロトコルを選択した後“追加”をクリックします。

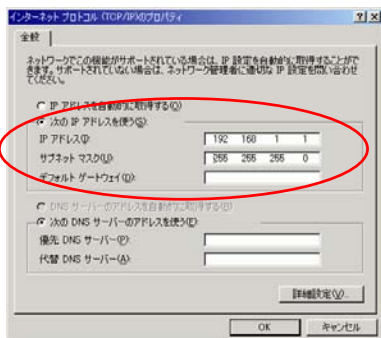
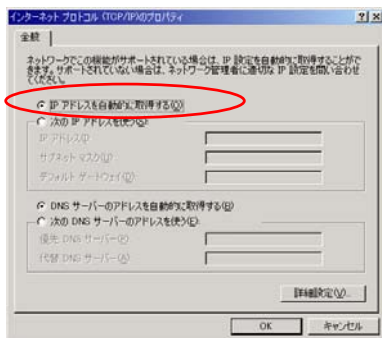


4. ネットワーク上でお客様のコンピュータを見たい場合、**File and Printer Sharing for Microsoft Networks** がインストールされていることを確認して下さい。

IP アドレスの設定

注意: IP アドレスをネットワーク上のコンピュータに指定する時、各コンピュータの IP アドレスは、同じサブネットマスクで設定して下さい。広帯域ルーターが DHCP 機能を備えている場合、静的 IP アドレスをお客様のコンピュータ内に指定する必要がありません。

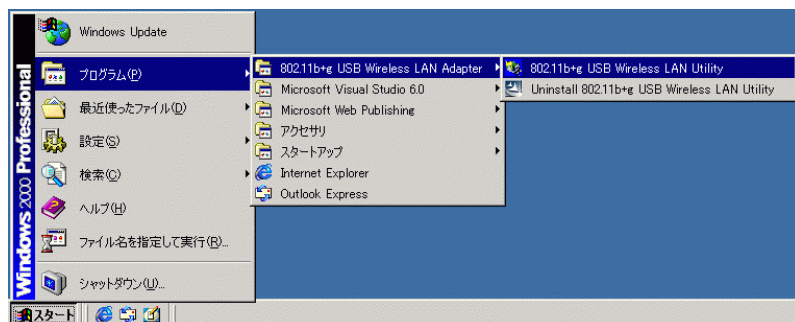
1. 一つの動的 IP アドレス (広帯域ルーターが DHCP 機能を備えている場合)を設定する場合、“**IP アドレスを自動的に取得する**”項目であることを確認して下さい。
2. 固定IPアドレス (広帯域ルーターが DHCP機能をサポートしていない或いは1つの静的IPアドレスを指定する必要がある時)を設定する場合、“**次のIPアドレスを使う**”項目であることを確認して下さい。そして “**IPアドレス**” フィールド内に IP アドレスを入力します。
例: IP アドレス: 192.168.1.1, サブネットマスク: 255.255.255.0



ユーティリティの設定

無線ネットワークインターフェースカードのインストールが完了した後、カスタマイズしてユーティリティを設定できます。

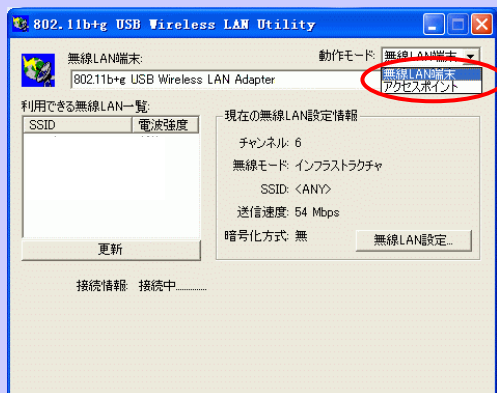
スタート → 全てのプログラム → 802.11b+g Wireless LAN → 802.11b+g USB Wireless LAN Utility と移ります。



Windows 2000/XP において、タスクバーに設定ユーティリティのアイコンが現れます。直接このアイコンをクリックして設定ユーティリティを開くことができます。

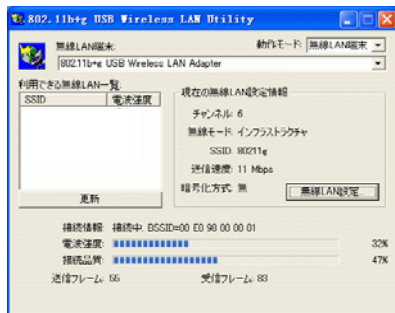


注意: ユーティリティー内には Station と Access Point の 2 種類のモードに切り換えることができますのでプルダウンメニューから必要なモードを選択して下さい。



Station

Station モードを選択した場合、以下の画面が現れます。

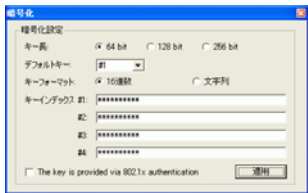



Channel チャンネル	現在選択しているチャンネル(計 14 個のチャンネルを選択することができ、使用する国によって決定)が示されます。
Type 動作モード	<p>Infrastructure (マスタ/スレーブ方式のネットワークアーキテクチャ) は、無線ネットワークインターフェースカードとアクセスポイント (Access Point) で構成されるネットワークアーキテクチャです。この無線ネットワークインターフェースカードとアクセスポイントによって無線 LAN を有線のグローバルネットワークに接続することができます。</p> <p>Ad-hoc (無線アドホックネットワーク) は、簡単に且つスピーディーにミニ無線ワークグループを設定します。無線ネットワークインターフェースカードを組み合わせることで、その他のコンピュータとファイルおよびプリンタを共用できます。</p>
SSID ネットワークネーム	<p>SSID は、無線ネットワーク内における各ポイント (points) で共用する 1 つの特定された名前です。同一ネットワーク内の全てのリンクの各装置とポイントは、同じ SSID を備えていなければなりません。</p> <p>当無線ネットワークインターフェースカー</p>

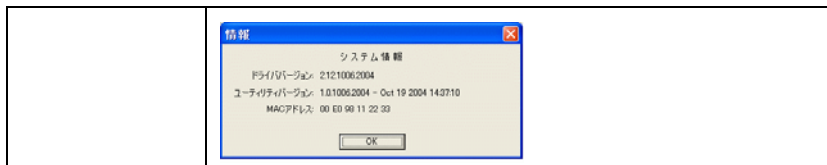
	ドの現在の SSID 設定を示します。
Tx Rate 送信速度	▼ をクリックすることで Auto、1、2、5.5、11、6、9、12、18、24、36、48、54 Mbps という送信速度を選択することができます。最高は、 54 Mbps に達することができます。
Encrypt 暗号化方式	WEP は、64 Bit/128 Bit で入力する共用認証のデータ安全システムです。
More Setting... 無線 LAN 設定	<p>More Setting をクリックすると、以下の画面が現れます（詳細な説明は、次のページの More Setting をご参照下さい。）</p> 
Link Status 接続情報	当無線ネットワークインターフェースカードと AP(Access Point)間のリンク状態を示します。
Signal Strength 電波強度	当無線ネットワークインターフェースカードと AP リンクの信号強度を示しています。
Link Quality 接続品質	当無線ネットワークインターフェースカードと AP 間のリンクの品質を示しています。
Tx Frame 送信フレーム	<p>当無線ネットワークインターフェースカードが送信するパケット量。</p> <p>(Frame: パケットの単位)</p>
Rx Frame 受信フレーム	<p>当無線ネットワークインターフェースカードが受信するパケット量。</p> <p>(Frame: パケットの単位)</p>

More Setting...

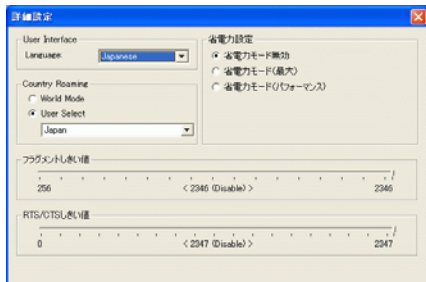
Channel チャンネル	このチャンネルは、AP の設定により自動的に変更されます。
Tx Rate 送信速度	▼ をクリックすることで Auto 、 1 、 2 、 5.5 、 11 、 6 、 9 、 12 、 18 、 24 、 36 、 48 、 54 Mbps という送信速度を選択することができます。最高は、 54 Mbps に達することができます。
SSID ネットワークネーム	SSID は、無線ネットワーク内における各ポイント (points) で共用する 1 つの特定された名前です。同一ネットワーク内の全てのリンクの各装置とポイントは、同じ SSID を備えていなければなりません。
Any	Any にチェックを入れることで、自動的に AP から SSID を取得することができます。 Any にチェックを入れない場合、手動で SSID を入力しなければなりません。
Network Type 無線モード	Infrastructure (マスタ/スレーブ方式のネットワークアーキテクチャー) は、無線ネットワークインターフェースカードとアクセスポイント (Access Point) で構成されるネットワークアーキテクチャーです。この無線ネットワークインターフェースカードとアクセスポイントによって無線 LAN を有線のグローバルネットワークに接続することができます。 Ad-hoc (無線アドホックネットワーク) は、簡単で且つスビーディーにミニ無線ワークグループを設定します。無線ネットワークインターフェースカードを組み合わせることで、その他のコンピュータとファイルおよびプリンタを共用できます。
Encryption 暗号化	Change をクリックすることでセーフティー設定を変更します。変更後設定を保存する場合は、 Apply をクリックして下さい。プルダウンメニューから Disable 、 WEP 、 TKIP 或いは AES を選択できます。

<p>Authentication Mode 認証方式</p>	<p>プルダウンメニューから認証モード、Auto、Open System、Shared Key、WPA と WPA PSK を選択することができます。</p>
<p>Encryption Setting 暗号化設定</p>	<div data-bbox="284 203 578 230">WEP Encryption Setting</div> <div data-bbox="284 244 634 459">  </div> <div data-bbox="673 203 966 230">WPA EncryptionSetting :</div> <div data-bbox="673 244 947 510">  </div> <p>Change をクリックすると以上の設定を変更できます。変更後設定を保存したい場合は、Apply をクリックして下さい。</p> <p>Key length (キー(パスワード)長さ) : 64 (bit) と 128 (bit) でパスワードの長さを選択することができます。</p> <p>Default Key ID (既定パスワード ID) : Key Value #1~#4 で Default Key ID を設定できます。</p> <p>Key Format (パスワード形式) : 16 進コードを使用する場合(0-9 or A-F), Hexadecimal を選択して下さい。ASCII (アメリカ情報交換用標準コード)を使用する場合、Select ASCII を選択して下さい。</p> <p>64-bit WEP を使用する場合、10 個の 16 進コード或いは 5 個の ASCII コードを設定すること。</p> <p>128-bit WEP を使用する場合、26 個の 16 進コード或いは 13 個の ASCII コードを設定すること。</p> <p>Key Value (パスワード) (#1~#4) : この設定は、WEP の暗号化を介して接続する無線ネットワークのパスワード設定に用います。この 4 個のフィールドに手動で WEP パスワードを入力して無線データを暗号化或いは復号化することができます。</p> <p>□ The Key is provided via 802.1x authentication : ネットワーク管理者に対して現在使用している安全プロトコルをお聞き下さい。802.1x 認証を使用する場合、この項目にチェックを入れ、802.1x 安全プロトコルを開いて下さい。802.1x 安全プロトコルを開いた後、Key Vaule (パスワード) が自動的に設定されますので、Apply をクリックするだけで OK です。</p>

	<p>WPA Encryption Setting (WPA 暗号化の設定)</p> <p>Protocol (プロトコル) : このプルダウンメニューから認証プロトコル、TLS 或いは PEAP を選択することができます。</p> <p>User Name (ユーザー名) : ネットワーク管理者に関連のログオン名をお聞き下さい。</p> <p>Password (パスワード) : ネットワーク管理者に関連のログオンパスワードをお聞き下さい。</p> <p>Passphrase (パスフレーズ) : インターネットパスワードの入力</p> <p>Key Format (パスワード形式) : Hex (16 進コード) の数字(0-9 or A-F)を使用する場合、Hex を選択して下さい。ASCII (アメリカ情報交換標準コード)を使用する場合、ASCII を選択して下さい。</p> <p>Certificate (認証) : ネットワーク管理者に関連の認証問題をお聞き下さい。サーバーと同じ認証を選択します。</p>
Load 適用	<p>"Profile name" 表内からすでに保存されているファイルを選択して "Load" をクリックしてファイルをダウンロードできます。</p>
Save current 保存	<p>現在の設定を "Profile name" に保存することができます。</p>
Delete 削除	<p>Delete をクリックすると "Profile name" 内のファイルを削除します。</p>
Advanced Setting 詳細設定	<p>Advanced Setting をクリックすると下記の画面(詳細な説明は、次のページの Advanced Setting 部分を参照して下さい) で設定することができます。</p> 
Information 情報	<p>Information をクリックするとユーティリティの基本データや Driver Version (ドライバのバージョン)、Utility Version (ユーティリティのバージョン) と MAC Address (MAC アドレス) を調べることができ、OK をクリックすると終了します。</p>



Advanced Setting



User Interface (ユーザーインターフェース)

Language 言語	English (英語) 、 Traditional Chinese (繁体中国語) 、 Simplified Chinese(簡体中国語) 或いは Japanese(日本語) を選択します。
-----------------------	--

Power Consumption Setting (電力消費量の設定)

Continuous Access Mode (CAM) 省電力モード無効	このモードでは、データを送信していない時、正常に電力を供給しています。
Maximum Power Saving Mode 省電力モード (最大)	これは最大限に省エネにするためのモードです。高いフローでデータを送信する時も省エネモードとなります。
Fast Power Saving Mode 省電力モード (パフォーマンス)	このモードは、データを送信するフローによって CAM (連続アクセスモード) と Maximum Power Saving Mode(最大省エネモード) に切り替わります。ドライバは、4 秒毎にデータの送信フロー(パケット量のみ)の状況を見て電力供給モードを決定することができます。総フローが 10k bytes を超える場合、このモードは CAM を選択します。総フローが 10k bytes 以下の場合、 Maximum Power Saving Mode を選択します。

Country Roaming (海外ローミング)

World Mode ローミングモード	この機能は、802.11dをサポートしている状況下においてのみ使用することが可能です。
User Select 国別	この項目で所在地の国家を選択します。
Fragmentation Threshold フラグメントしき い値	無線ネットワークを高いフローにする時、フラグメント化で効果を改善し、無線ネットワーク内でファイル容量が大きいものを送信する場合、フラグメンテーション機能を用いてパケットを分割します。閾値の範囲は 256 から 2346 まで、既定値は 2346 です。
RTS/CTS Threshold RTS/CTS しきい 値	これはノード非表示 (Hidden Node) が生じることを避ける機能です。ノード非表示の問題が発生する場合、ユーザーはパケットの大きさを指定しなければなりません。 <u>データが設定値を超えた場合、RTS/CTS機能を起動し、既定値は 2347 です。</u> 閾値は既定値 2347 を維持し、データフローが合致しない場合、閾値の調整をお勧めします。

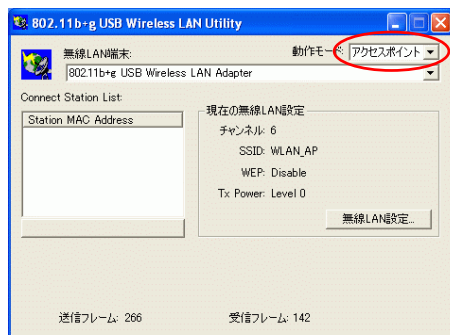
Access Point（アクセスポイント）


802.11g Wireless LAN USB Adapter をアクセスポイント (AP) として設定する。アクセスポイントモードで、**802.11g Wireless LAN USB Adapter** はアクセスポイントとして機能します。これにより、専用の AP デバイスを使用することなしに、無線ネットワークをセットアップできます。最大 16 の無線端末を **802.11g Wireless LAN USB Adapter** に関連付けることができます。

802.11g Wireless LAN USB Adapter を有線または無線ネットワークに接続するには、次の要件を満たす必要があります。

1. **802.11g Wireless LAN USB Adapter** を有線ネットワークに接続されたコンピュータに取り付ける必要があります。
2. ネットワーク共有（例は、付録を参照）を設定するか、コンピュータに 2 つのインターフェイス（無線と有線）を接続します。
3. 無線端末の IP アドレスを **802.11g Wireless LAN USB Adapter** が取り付けられているコンピュータと同じサブネットとして設定します。**無線端末コンピュータの設定**を参照してください。

Access Point（アクセスポイント） モードを選択すると下記の画面が現れます。



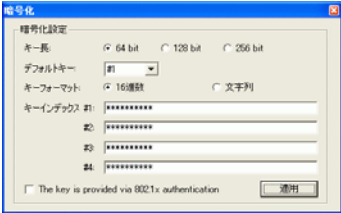
Network Adapter 無線 LAN 端末	プルダウンメニューから Network Adapter (ネットワークアダプタ) を選択します。メニューに当装置 (the 802.11g Wireless LAN USB Adapter) と 802.11g Wireless LAN USB Adapter をサポートするその他の装置が表示されます。
Connect Station List ワークステーションリスト	現在全ての AP にリンクしているワークステーションを示します。
Channel チャンネル	現在選択しているチャンネル(計 14 個のチャンネルを選択することができ、使用する国によって決定します)が示されます。
SSID ネットワークネーム	SSID は、無線ネットワーク内における各ポイント (points) で共用する 1 つの特定された名前です。同一ネットワーク内の全てのリンクの各装置とポイントは、同じ SSID を備えていなければなりません。 当無線ネットワークインターフェースカードの現在の SSID 設定を示します。
WEP 有線と同等のプライバシー	この画面では、WEP 機能がクローズであることを示しています。WEP の設定を起動したい場合 More Setting... をクリックしてから設定して下さい。
Tx Power 力率	プルダウンメニューから Tx power を選択します。これには Level 0 (Maximum Power) 、 Level 1 、 Level 2 と Level 3 (Minimum) という計 4 つ選択があります。
More Setting... 詳細設定	More Setting... をクリックすると下記の画面が現れます (詳細な説明は、次のページの More Setting をご参照下さい)。 

Tx Frame 送信フレーム	当無線ネットワークインターフェースカードが送信するパケット量。 (Frame: パケットの単位)
Rx Frame 受信フレーム	当無線ネットワークインターフェースカードが受信するパケット量。 (Frame: パケットの単位)

More Setting...



Channel チャンネル	現在選択しているチャンネル(計 14 個のチャンネルを選択することができ、使用する国によって決定)が示されます。
Mode 動作モード	Mixed Mode (ミックストモード) または 802.11b only (802.11b のみ)、 802.11g only (802.11g のみ) 標準モード(このオプションを選択すると、デバイスは適切な標準を自動的に変換します)。
SSID ネットワークネーム	SSID は、無線ネットワーク内における各ポイント (points) で共用する 1 つの特定された名前です。同一ネットワーク内の全てのリンクの各装置とポイントは、同じ SSID を備えていなければなりません。 当無線ネットワークインターフェースカードの現在の SSID 設定を示します。
Tx power 力率	プルダウンメニューから Tx power を選択します。これには Level 0 (Maximum Power) 、 Level 1 、 Level 2 と Level 3 (Minimum) という計 4 つ選択があります。
Change 或いは Apply	Change をクリックすると General Connection Setting (一般リンク設定) を変更できます。完了した後設定を保存する場合 Apply をクリックして下さい。

<p>WEP 有線と同等のプライバシー</p>	<p>プルダウンメニューから Enable 或いは Disable を選択することで WEP 機能を起動あるいはクローズすることができます。 Setting をクリックすると下記の画面が現れます（この画面の詳細な説明は、Station モード内の WEP Encryption Setting を参考にして下さい）：</p> 
<p>Authentication Mode 認証モード</p>	<p>プルダウンメニューから Authentication mode（認証モード）を選択します。Open System と Shared Key の2つから選択できます。</p>
<p>Fragment フラグメント化</p>	<p>無線ネットワークを高いフローにする時、フラグメント化で効果を改善し、無線ネットワーク内にファイル容量が大きいものを送信する場合、フラグメンテーション機能を用いてパケットを分割します。閾値の範囲は 256 から 2346 まで、既定値は 2346 です。</p>
<p>RTS/CTS 送信要求 受信準備完了</p>	<p>これはノード非表示（Hidden Node）を生じることを選ける機能です。ノード非表示の問題が発生する場合、ユーザーはパケットの大きさを指定しなければなりません。<u>データが設定値を超えた場合、RTS/CTS機能を起動し</u>、既定値は 2347 です。 閾値は既定値 2347 を維持し、データフローが合致しない場合、閾値の調整をお勧めします。</p>
<p>Preamble 前置コード</p>	<p>無線環境において同期作用には、通常 Synchronization (Sync 同期) and Start frame delimiter (フレーム開始部)。(注:設定を変更する前に AP の設定を参考にして下さい)に用いることを含みます。 干渉が比較的多い環境においては、Long(長)に設定します。Short(短)に設定した場合、ワークステーションの演算負担を軽減できると共に送信効率が比較的高くなりますが、環境が悪いと干渉され易くなります。</p>
<p>MAC Address Filter MAC アドレスフィルター</p>	<p>Setting をクリックすると下記の画面が現れます。プルダウンメニューから Filter Type（フィルタータイプ）を選択することができます。 Disable : Disable を選択するとフィルター機能をクローズします。</p>

Accept : **Change** をクリックすると計 15 組の MAC address を入力できます。 **Accept** を選択すると入力した MAC address は AP までリンクします。
Reject : **Change** をクリックすると、計 15 組の MAC address を入力できます。 **Reject** を選択すると入力した MAC address は AP までリンクできなくなります。

アクセスポイント設定

Filter Type:

Filter MAC Address

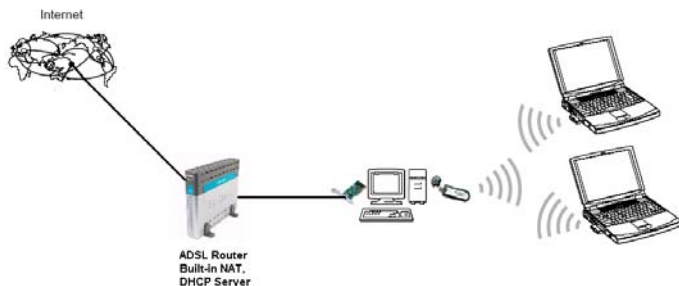
00.		08.	
01.		09.	
02.		10.	
03.		11.	
04.		12.	
05.		13.	
06.		14.	
07.		15.	

Bridge Adapter
ブリッジアダプタ

No Bridge を選択した場合、無線 LAN 内のワークステーションで対外的なインターネットのネットワークにリンクできなくなります。
このプルダウンメニュー内の装置(イーサネットカード)を選択した場合、無線 LAN 内ワークステーションにおいて対外的なネットワークにリンクできます。

付録

Soft AP Configuration



セットアップ要件:

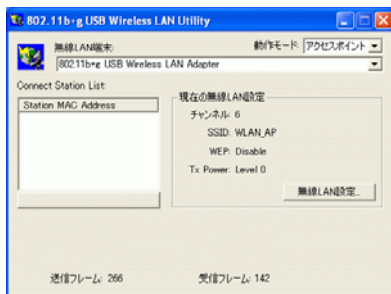
802.11b+g Wireless LAN USB Adapter を使用して、有線または無線ネットワークの橋渡しをするためには、次を満たす必要があります。

1. LAN 接続されたコンピュータに 802.11b+g Wireless LAN USB Adapter を取り付けます。
2. ソフトアクセスポイント(Soft Access Point)はネットワークスイッチ、ハブまたはブロードバンドルータに接続する必要があります。RJ-45 コネクタを搭載した標準の Category 5 UTP Ethernet ケーブルを使用して、ソフトアクセスポイント(Soft Access Point)をルータ、ハブ、スイッチのどれかに接続します。

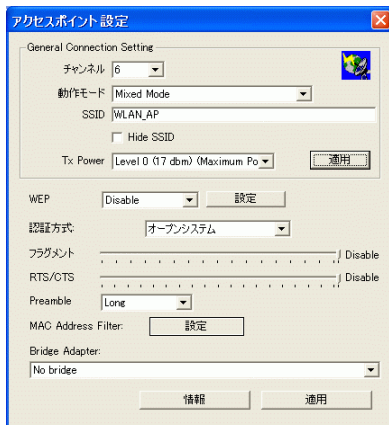
3. 無線カードを取り付けているコンピュータはイーサネット接続されており、DHCP サーバーで LAN に接続されています。

SoftAP 構成:

1. アクセスポイント(Access Point)モードを選択すると、次の図が表示されます。



2. Click the **More Setting...** ボタンをクリックすると、構成用の次の図画表示されます。



3. プルダウンメニューから PC にすでに取り付けられている有線 Network Adapter（ネットワークアダプタ）を選択します。



有線 LAN カードに接続されているネットワークに DHCP サーバーがあれば、DHCP クライアントとして無線端末を構成する必要はありません(**Obtain an IP address automatically (IP アドレスを自動的に取得する)**を選択してください)。ネットワークに DHCP サーバーがない場合 固定 IP を有線 PC に割り当てる必要があります(Use the following IP address (次の IP アドレスを使用する)を選択してください)。

